

「第3回全国海の再生・ブルーインフラ賞」授賞取組の決定について

「第3回全国海の再生・ブルーインフラ賞」^(※)には全国各地から13件の取組の応募がありました。応募いただきました取組について審査委員による厳正なる審査を行った結果、下記の取組を国土交通大臣賞、みなと総研賞にそれぞれ決定しました。授賞取組の概要は添付資料をご覧ください。

授賞式は、2月20日に開催される「第20回海の再生全国会議」（於：広島港クルーズターミナル（広島県広島市南区宇品海岸3丁目12））に合わせて行います。

(※) 全国海の再生・ブルーインフラ賞

我が国の海辺空間の環境再生、普及啓発、青少年の育成のほか、ブルーインフラ（藻場・干潟等及び生物共生型港湾構造物）の保全・再生・創出を推進し、海辺の環境改善、地域社会の活性化、カーボンニュートラル等に貢献する活動の実績と成果がある者（市民団体や民間団体等）の取組を称えることで、我が国の経済・文化の中心である港湾の貴重な海辺空間がより豊かに次世代に引き継がれること、また、カーボンニュートラルへの貢献を目的としたブルーインフラの拡大に寄与することを目的とし、令和5年度に新たに創設した賞です。

【主催】一般財団法人 みなと総合研究財団 【後援】国土交通省

●国土交通大臣賞（1取組）

取組名：宇和島発！災害に負けず“漁協・地域・自治体・企業・研究機関・子供たち”が連携実現したアマモ再生ブルーカーボンプロジェクト

応募者：一般社団法人 宇和海環境生物研究所

授賞理由：平成30年7月豪雨の影響で消失したアマモ場の再生に向けて、Jブルークリエイツ®の販売収益をアマモ場のモニタリングや青少年向けの防災環境教育に活用し、取組の持続可能性を高めている点、先端技術を活用して効率的にアマモ場の再生に取り組んでいる点、地域が主体となって企業等多様な組織が連携して取り組んでいる点を高く評価した。

●みなと総研賞（1取組）

取組名：岩国市神東地先におけるリサイクル資材を活用した藻場・生態系の創出活動

応募者：岩国市神東地先におけるリサイクル資材を活用した藻場・生態系の創出プロジェクト

授賞理由：鉄を造成する過程で生成される鉄鋼スラグ製品を再生可能なリサイクル材として利用する技術を活用し、政府が国家戦略として進めているサーキュラーエコノミーの実現に貢献する取組となっている点、海辺環境の改善に地域が企業を含む多様な主体と連携している点、高等専門学校生による学会発表を通じた積極的な普及啓発活動を行っている点を高く評価した。

【問い合わせ先】

一般財団法人 みなと総合研究財団 青山、石井

TEL:03-5408-8291 E-MAIL:wavemaster@wave.or.jp

宇和島発！災害に負けず“漁協・地域・自治体・企業・研究機関・子どもたち”が連携実現した アマモ再生ブルーカーボンプロジェクト

一般社団法人宇和海環境生物研究所

■プロジェクトの概要

- 宇和海に面した吉田地域（愛媛県宇和島市）は、平成30年7月豪雨により、大量の雨水や土砂が海に流出し、アマモ場の消失や底質の悪化が進行した。
- この災害を契機として、「海の環境復興」を共通の使命とし、アマモ場や底質の再生に向けた取組の実施にとどまらず、全国の災害被災沿岸地域にも展開可能な“海による地域復興モデル”的創出を目指している。

■プロジェクトの特徴・PRポイント

- Jブルークレジット®の認証を受け、クレジットの販売収益を活動資金や青少年向けの「防災環境教育」に活用することで、自律的に取組を継続できる仕組みを構築した。
- 富士通株式会社と連携した「海洋デジタルツイン」を活用し、災害による堆積・流動の変化を再現したアマモの枯死リスクの予測、アマモ再生の「最適地点」の選定、今後の豪雨災害時の濁水流入シミュレーションを実施。これらで得たデータを踏まえた効率的かつ科学的根拠に基づいたアマモ場の再生に取り組んでいる。
- 海洋環境の保全・改善を漁業関係者や地域住民が主体に実施し、自治体や企業等の多様な主体が連携した協働体制と関係者・関係機関との広域的な合意形成を構築した。

活動場所



平成30年7月豪雨の被害



アマモ場の再生プロジェクト



青少年向けの体験型教育



しんとうちさき 岩国市神東地先におけるリサイクル資材を活用した藻場・生態系の創出活動

岩国市神東地先におけるリサイクル資材を活用した藻場・生態系の創出プロジェクト

■プロジェクトの概要

- 本取組は、**神東地先（山口県岩国市）**における二酸化炭素の吸收・固定、漁業に有用な魚類の集積による漁獲高の増加、生物多様性の向上を目指し、製鉄の工程で生じる再利用可能な副産物から製造した「鉄鋼スラグ製品」を活用した藻場の創出活動を行っている。
- 本取組みにより、**約3.4ヘクタールの海藻藻場を創出した**。また、藻場創出の効果を科学的に検証するため、10年以上にわたって着生海藻の生育状況、有用魚類の集積状況、二酸化炭素吸收・固定量等の継続的な調査を実施しており、産学官が連携して環境改善効果の把握にも努めている。

■プロジェクトの特徴・PRポイント

- 天然石材に代えてリサイクル材である鉄鋼スラグ製品を用いて海藻藻場を創出した。
- 神代漁業協同組合が中心となり、岩国市、宇部工業高等専門学校、JFEスチールと連携し、産官学一体で取組を推進。
- 創出した海藻藻場を特定のコアメンバーだけでなく、宇部工業高等専門学校の学生が研究の場として利用し、成果を学会や論文などにて発表しており、本取組が青少年の育成など多面的な価値を生み出している。

活動場所の海域



設置した鉄鋼スラグ製品



鉄鋼スラグ製品の設置作業



造成した藻場での研究

